

こんにちは せいてつ 病院です



地域医療支援病院 日本医療機能評価認定病院
社会医療法人 製鉄記念八幡病院
<http://www.ns.yawata-mhp.or.jp>

せいてつびょういん

検索

特集

内視鏡センター開設

わたしたちの新たな思い

- 診療科のご紹介
歯科・口腔ケア科
- 専門外来のご紹介
フットケア外来
- こんにちは探検隊
たなか整形外科
- なるほど! なっ得! 薬の話
ジェネリック医薬品



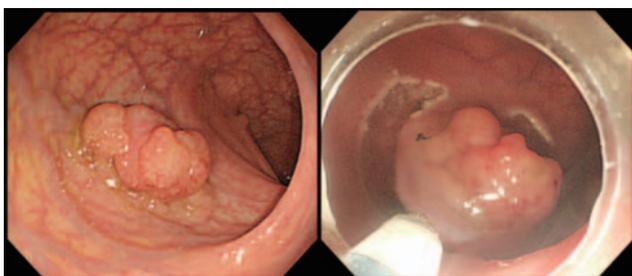


「内視鏡」は、からだの外からは診断のつかない病変を、からだの内側から観察する医療機器です。わが国で1950年に生まれたフィルム式の「胃カメラ」は、科学技術の発展に伴い、高性能ビデオカメラ内蔵の「電子内視鏡」に生まれ変わり、いまやハイビジョンモニターで鮮明・緻密な画像を得ることができます。

これまで当院の内視鏡室は、内科の一部門として消化器・呼吸器領域の検査・治療に対応してきましたが、このたび内視鏡専門の独立した部署として、中央診療部門の一組織に改組されることとなりました。ここでは最先端の機器を備えた新しい「内視鏡センター」の診療内容についてご説明いたします。

消化器内科部門

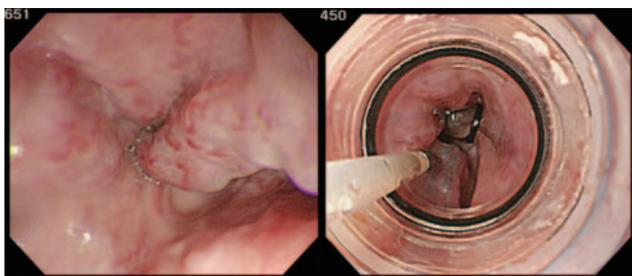
上部消化管内視鏡・大腸内視鏡・小腸内視鏡検査ならびに早期がんの粘膜下層剥離術(ESD)、消化管出血に対する止血術、腫瘍や炎症で狭くなった消化管を拡げる狭窄拡張術(EBD)やステント留置などの内視鏡治療を行います。



早期直腸がんに対するESD

肝臓内科部門

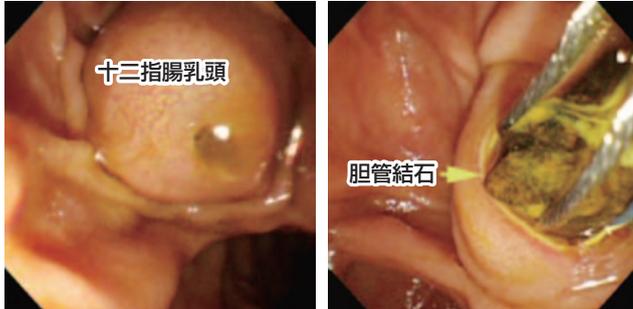
肝硬変・門脈圧亢進症に伴う食道胃静脈瘤に対して静脈瘤結紮術(EVL)／硬化療法(EIS)などの内視鏡治療を行います。



食道静脈瘤

外科部門

胆膵疾患に対する逆行性膵胆管造影(ERCP)、超音波内視鏡(EUS)検査ならびに結石摘出術・ステント留置などの内視鏡治療を行います。



ERCPによる総胆管結石の治療

今後の展望

各診療部門の経験豊富な専門医に加え、介助・看護を行う専任看護師と機器洗浄を担う専任洗浄員、機器の保守管理のスペシャリストである臨床工学技士、受付業務などの事務職員が加わり、チーム一丸となってレベルの高い内視鏡診療に取り組んでまいります。

施設面では、安全で快適に内視鏡診療を受けていただけるよう、センター内にトイレや前処置スペースや、更衣スペースを増設します。また、静脈麻酔後の回復スペースをセンター内に確保します。今後はさらに数多くの検査に対応可能とするために、検査台の増設を検討中です。

なお、当センターでは原則として直接予約を受け付けておりません。検査・治療をご希望の患者さんは、かかりつけ医もしくは各診療科の担当医にご相談ください。

【センター概要】

スタッフ

医師15名、看護師9名、臨床工学技士6名、
洗浄員1名

資格・施設認定など

日本消化器内視鏡学会 指導医1名 専門医2名
認定消化器内視鏡技師3名
専門医制度指導施設
日本呼吸器内視鏡学会 指導医1名 専門医2名
専門医制度認定施設

内視鏡センター TEL 093-671-9304

呼吸器内科部門

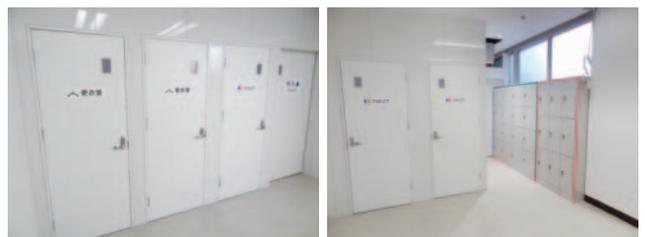
呼吸器疾患に対する気管支鏡検査にて細胞診・生検を行い、肺がん・肺炎などの診断に迫ります。



気管支鏡検査



内視鏡センタースタッフ



新しく増設したトイレ、更衣室

内視鏡センター長
消化器内科部長

中村 滋郎
なかむら しげお

日本内科学会認定医・指導医
日本消化管学会胃腸科認定医
日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医



わたしたちの新たな思い

わたしたちの使命は 住民の暮らしを支え、
健康長寿をめざした地域づくりに貢献することです



副院長・外科系担当
がん診療センター長
ひがし ひで ふみ
東 秀史

〈専門〉消化器、肝臓
日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医・
消化器がん治療認定医
日本臨床腫瘍学会暫定指導医
日本消化器病学会専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

理事長・病院長
つち はし たく や
土橋 卓也

〈専門〉高血圧
日本内科学会認定医・指導医
日本高血圧学会専門医
日本循環器学会専門医
日本腎臓学会専門医
日本痛風・核酸代謝学会専門医
日本病院総合診療医学会専門医
日本医師会認定産業医

副院長・看護部長
さか もと ひろ こ
坂本 弘子

新日本製鐵(株)八幡製鐵所病院
看護専門学校卒
九州国際大学卒
認定看護管理者

副院長・内科系担当
こ が とく し
古賀 徳之

〈専門〉循環器
日本内科学会総合内科専門医・
指導医
日本循環器学会専門医
日本腎臓学会専門医
日本心血管インターベンション
治療学会専門医・指導医

新理事長・病院長ごあいさつ

2015年4月1日より病院長に就任いたしました。1900(明治33)年、官営製鐵所の附属病院として設立されて以来、116年目を迎えた伝統ある製鉄記念八幡病院のかじ取りを任されることの重責を痛感すると同時に、地域に根ざした存在感のある病院として受け入れていただけるよう努力する所存です。

今年度は、一部診療科の休止など機能縮小があり、ご不便をおかけすることをお詫び申し上げます。当院の診療機能の充実に向けて引き続き努力して参ります。また、国が進める2025年の医療提供体制の再構築に向け、医療機能に応じた病床の再編統合を進める「地域医療構想調整会議」が今年から設置されますので、その内容を注視しながら、当院の将来像を見据えた計画を構築し、実行に移したいと考えています。超高齢社会を迎えている八幡の現状を踏まえ、地域との密接な連携のもと、ニーズに合った良質な医療を提供することが当院の役割だと考えております。

昨年、あらたに制定しました「住民の暮らしを支え、健康長寿をめざした地域づくりに貢献します」という当院の使命を心に刻み、地域の皆さまに安心して受診していただける病院をめざして職員一同、努力する所存です。皆さまのご支援ご協力をお願いいたします。

土橋 卓也

新副院長ごあいさつ

1月より内科系副院長に就任いたしました古賀徳之(こがとくし)です。出身は福岡市で、1983(昭和58)年に久留米大学医学部を卒業後、九州大学第二内科に入局しました。専門は循環器疾患、特に心臓カテーテル治療です。1988年に当院の前身である新日鐵八幡製鐵所病院の循環器科に着任し、1992年より心臓カテーテル技術修得のため小倉記念病院に一年半出向した以外は、今日まで当院一筋で地域の患者さんの循環器疾患診療に微力ながら邁進してまいりました。北九州市にはたくさんの基幹病院がありますが、安全で高度な診療はもちろん、加えて思いやりのある診療ができる病院として、今後も先頭に立って努力していきたいと思っております。何卒よろしくをお願いいたします。

古賀 徳之

歯科・口腔ケア科

歯科・口腔ケア科は、がん治療を中心とした手術等の周術期における合併症（感染症など）の軽減と予防を目的として、2014年10月に開設いたしました。

がんの治療中には、体に様々なトラブルが生じてしまう可能性があります。お口の中だけでなく、お口の中の状態が原因となって生じてしまうトラブルもあります。

例えば、抗がん剤や放射線治療を行っている場合には、歯の痛み、口内炎やお口の乾きなどのトラブルがあげられます。その結果、お口から食べ物や水を十分にとることができなくなり、体力が急速に低下してがん治療を中止せざるを得ないこともあります。ほかにも、お口の中が汚れた状態で手術をした場合には、傷口が近いと感染がおこって治りが悪くなったり、肺炎などによって命の危険が生じたりすることも考えられます。

歯科・口腔ケア外来では、がんの治療中の患者さんにこれらの合併症が生じて治療の進行を妨げられることがないように、歯科治療を実施しています。

手術前の段階では、お口の中の状態を評価し、必要があれば歯周病や入れ歯などの歯科治療を行います。そして、歯科衛生士が歯磨きの指導や専門的なお口の清掃を行いますので、お口の中がきれいになった状態で患者さんに手術に臨んでいただけます。

手術後も、できるだけ早期からお口の中の状態の確認を行い、お口の清掃を行います。ベッド上で安静が必要な場合は、病室に伺って行う場合もあります。

手術に関連する合併症を防ぎ、少しでも安心してがんなどの治療を受けて頂けるよう、歯科・口腔ケア科もサポートできればと考えています。



前列左より 三次 翔医師、木村 貴之医師
後列左より 歯科衛生士 岩永 幸子、麻生 裕美

●診療担当表

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|--------------------|---|---|---|---|---|
| 9:00 ~ 16:00 | ● | | | ● | |

※院内紹介患者のみ

歯科・口腔ケア科 TEL 093-671-9780

専門外来のご紹介

フットケア外来

フットケア外来は、足のトラブルを予防したり、悪化を防ぐために、足のケアを専門的に行う外来です。

足のトラブルを起こしやすい方など、フットケアの必要があると医師が判断した方を対象に、専門の研修を受けた「皮膚・排泄ケア認定看護師」と「糖尿病療養指導士」がケアを担当します。



写真左より「皮膚・排泄ケア認定看護師」鶴留 文代
「糖尿病療養指導士」下見 弘子、秋山 留美子

1. フットケアの内容は？

- 足のトラブルや予防について説明します。
- 足のケアが困難な方へ、爪切りなどのケアを行います。
- 足に異常がないか観察して、適宜専門の診療科へ受診の仲介をします。

2. 足のトラブルを起こしやすい人は？

糖尿病の方は血糖値が高い状態が続くと、神経障害や動脈硬化がひどくなり、感染に対する抵抗力が低下して感染症が進みやすく化膿しやすくなります。神経障害や血流障害がある場合は、足のトラブルを起こしやすくなります。神経障害が進むと痛みを感じにくいため、怪我をしても気付かず、放置して悪化することがあり

ます。また、動脈硬化で足の端まで血液が流れにくいと、足の細胞に必要な栄養や酸素が行き届かず、怪我が治りにくくなります。最悪の場合、足を切断しなくてはならないこともあります。足は第2の心臓です。足を切断すると寿命が短くなるとも言われています。いつまでも元気に過ごせるように、足を大事にしましょう。

フットケア外来は予約制です。以前は当院の糖尿病内科を受診している方を対象に、担当看護師が予約をしておりましたが、2014年11月より、糖尿病内科以外の診療科を受診している方でも、医師の指示があれば「フットケア看護外来」の予約ができるようになりました。

「看護外来」については、当院ホームページにも掲載していますので、ぜひご覧ください。



たなか整形外科

今回は、2014年5月に八幡東区の大蔵で開業された「たなか整形外科」を訪問しました。

院長の田中先生は、昨年3月まで当院の整形外科医長として9年間勤務しておられ、研鑽された技術と経験で、高齢者が多い八幡の地域医療に取り組まれています。



院長 田中 孝明 先生
たなか こうめい

Q：先生のコピーをお聞かせください

A：整形外科疾患は加齢的な変化が原因の場合が多く、完治が難しいことに多々遭遇します。患者さんが少しでも楽に日常生活を過ごせるようにそのお手伝いをしていくことが使命だと思えます。可能な限り患者さんの声に耳を傾けて、視診・触診などの基本を大事にしています。医学は日進月歩なので、正確な診断・適切な治療ができるように、日々精進していくべきだと考えています。

Q：貴院の特色やPR点を教えてください

A：製鉄病院に勤務していたときは、^{ひざ}膝関節を専門に治療してきましたが、現在は膝関節疾患に限らず、外傷や肩・脊椎・足などの痛みを生じる疾患、骨粗しょう症、スポーツ傷害などを治療しています。骨粗しょう症に関しては、股関節や脊椎を評価するDEXAという最新機器を設置しています。リハビリテーションは常勤の理学療法士が3名在籍し、ご高齢の方の痛みから、スポーツ傷害まで対応しています。駐車場も13台完備しています。



Q：当院へのメッセージをお聞かせください

A：昨年まで製鉄病院で勤務しておりましたので、製鉄病院の診療の質の高さや診療科同士の連携の良さは十分理解しています。そのため、安心して紹介させていただいております。日頃、整形外科をはじめ、他科の先生方、地域連携室の方にも正確かつ迅速に対応していただいております。感謝しています。



待合室の大きな窓が気持ちよく、田中先生のセンスが光るモダンでスタイリッシュな空間が広がっていました。ウインドサーフィンがご趣味という先生は、探検隊の質問に気さくに答えながら、院内を丁寧に案内してくださいました。スタッフの皆さんも明るく生き生きとされていて、元気を分けていただけそうな印象を持ちました。



たなか整形外科

北九州市八幡東区大蔵1丁目14-2
TEL 093-654-5656

診療時間

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日祝 |
|-------------|---|---|---|---|---|---|----|
| 9:00~12:30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ |
| 14:00~18:00 | ○ | ○ | ○ | △ | ○ | △ | △ |



今回の探検隊

リハビリテーション部(臨床心理士) 片江 あづさ
経営管理部 伊藤 晴貴

ジェネリック医薬品

調剤薬局で「ジェネリックに変更してもいいですか」と聞かれたことはありませんか？
テレビなどでも話題となっていますが、どのようなお薬なのでしょう。
今回はジェネリック医薬品についてご紹介します。

ジェネリック医薬品(後発医薬品)ってなに？

医薬品には商品の名前とは別に有効成分名があります。有効成分名は世界共通の名称であり、一般名(ジェネリック：generic)といいます。欧米で後発医薬品を一般名で処方することが多いことから、ジェネリックとよばれるようになりました。

ジェネリック医薬品と先発医薬品(新薬)ではどう違うの？

ジェネリック医薬品は、先発医薬品の特許が切れたあとに厚生労働省の承認を得て製造・販売されるお薬です。医薬品は薬事法によりさまざまな規制があり、ジェネリック医薬品は先発医薬品と同じ規制のもとで有効成分、分量、用法・用量、効能・効果が同等と認められています。薬の開発には長い年月と莫

大な費用が費やされるのに対し、ジェネリック医薬品はすでに有効性や安全性が確かめられた成分を使用して製品化されます。そのため開発や研究にかかるコストが少なく薬価が安くなっています。また、ジェネリック医薬品は飲みやすいように様々な工夫が施されているものもあります。

同じところ

- ◆ 有効成分の種類・量
- ◆ 用法・用量
- ◆ 効能・効果 ※一部異なる場合があります。

異なるところ

- ◆ 薬の形状・形・色・添加物等

ジェネリック医薬品の工夫にはこのような例があります。

- 大きくて飲みづらい錠剤を小さくする
- 水なしでも飲めるようにする
- お薬をコーティングすることで苦みを少なくする
- においを抑える
- 薬を判別しやすいように文字や記号を印字する



副作用について

ジェネリック医薬品も先発医薬品と同じように副作用があります。お薬を服用し、何か異常を感じた時は、かかりつけの医師や薬剤師に相談しましょう。



さまざまな薬が製造・販売され、自分でお薬を選択できる時代になりました。ジェネリック医薬品に変更したい際や、お薬について疑問がある際は医師や薬剤師に相談してみましょう。



検査結果をもらっても、略語が多く、何のことか分からない
といったことはありませんか？

そこで普段よく行われる検査について、略語の意味をやさしく解説します。

| | | HDL-C | LDL-C |
|------|----|--|---|
| 正式名称 | | HDLコレステロール | LDLコレステロール |
| 基準値 | | 41~96mg/dl | 86~140mg/dl |
| 説明 | | 血管壁に付着したコレステロールを肝臓に戻します。 抗動脈硬化作用があり、一般に善玉コレステロールと呼ばれます。 | 肝臓から末梢組織に運ばれます。動脈硬化の危険因子として、一般に悪玉コレステロールと呼ばれます。 |
| 結果 | 高値 | 原発性胆汁性肝硬変、薬物、妊娠 | 家族性高コレステロール血症、糖尿病、甲状腺機能低下症、ネフローゼ症候群 |
| | 低値 | 高脂血症、肥満、糖尿病、虚血性血管障害 | 甲状腺機能亢進症、肝硬変 |



病院ご利用の

賢い選択

2015年1月から高額療養費制度が改正されました。

限度額認定証 ~70歳未満の場合~



入院療養費・外来診療費の支払が高額になりそうときは、「限度額認定証」申請・提出することで、1ヶ月の窓口でのお支払いが自己負担限度額までとなります。

● 自己負担限度額(月額)

| 所得区分 | 自己負担限度額 | 4回目以降 |
|------------------|------------------------------|----------|
| 上位所得者 | ア 252,600円÷(総医療費-842,000)×1% | 140,100円 |
| 一般所得者 | イ 167,400円÷(総医療費-558,000)×1% | 93,000円 |
| | ウ 80,100円÷(総医療費-267,000)×1% | 44,400円 |
| | エ | 57,600円 |
| 低所得者 住民税非課税世帯 | オ | 35,400円 |
| | | 24,600円 |

● 申請窓口

| 保険 | 窓口 | ※は還付の場合のみ 申請に必要なもの |
|------------------------------|----------------|------------------------------|
| 国民健康保険 | 市町村役場 国保年金課 | ・保険証 ・印鑑 ※領収書 ※預金通帳 |
| 協会けんぽ 船員保険 | 全国健康保険協会 | |
| 健康保険組合 共済保険組合 国民健康保険組合 | 各健康保険組合 | 各窓口でお問い合わせください |

- 保険治療外の食事代・文書料・差額ベッド代・予防接種・分娩費・交通事故などは高額療養費の対象になりません。
- 同じ病院や診療所でも、歯科は別計算です。また、外来と入院も別計算です。
- 院外処方費で支払った薬代も、医療機関に支払った一部負担金に合算できます。
- 同一世帯で、2つ以上の病院や診療所を受診した場合は、別々に計算します。ただし、同一月内に21,000円以上の自己負担額を2回以上支払った場合、それらを合算して限度額を超えた分が申請により還付されます。
- 過去12か月で、4回目以降は限度額が減額となります。

■ お問い合わせ 医事課入退院会計 TEL 093-671-9550 (9:00~17:00)

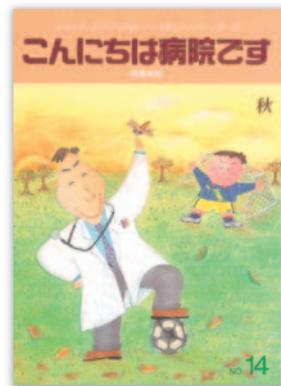
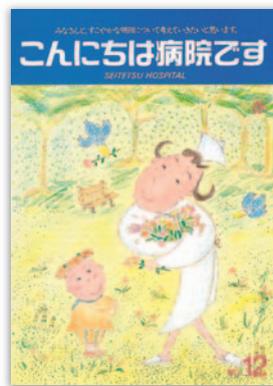


1990年から発刊しております当院の広報誌「こんにちはせいてつ病院です」が創刊25年を迎え、今号で100号となりました。モノクロではじまった病院広報誌ですが、当時は先進的な取り組みでした。2005年には病院広報誌コンクールで初入選、2006年には全国5位となり準優秀賞を受賞いたしました。

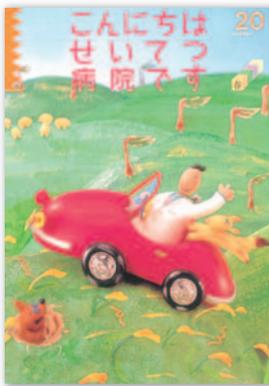
当院の広報誌は、各部門から選抜された多職種14人で作成しています。これまでのアンケートにおいても、たくさんのお褒めのお言葉をいただきました。これからもみなさんに親しんでいただける広報誌づくりをめざして、地域にお役に立てる情報を発信してまいります。



1980年 10人のスタッフで創刊



1993年 表紙をイラストにしました



1995年 手作りクラフト

1999年 病棟が竣工したときの記事です

2002年 理念が掲載されました



2005年 キャラクターのイラストになりました

緩和ケア研修会を開催しました

2月28日(土)・3月1日(日)、第4回緩和ケア研修会を開催しました。

牧野一郎緩和ケア外科部長を中心に5名の外部講師と当院緩和ケアチームの協力のもと、地域の先生方と当院の医師が一緒になって、地域医療における緩和ケアについて熱心に勉強されました。



医師の人事異動のお知らせ

| | | | | | | |
|----|-----------|--------|--------------|--------|--------------|--------|
| 退職 | 肝臓内科 | 黒川 美穂 | 血管外科 | 久良木 亮一 | [研修医] 2年次 | |
| | 消化器内科 | 大石 知浩 | 整形外科担当部長 | 香月 一郎 | | 青柳 いくみ |
| | 循環器内科 | 瀧口 愛 | 整形外科 | 居石 卓也 | | 内田 泰輔 |
| | 循環器内科 | 茨木 千恵 | 整形外科主任医 | 安部 大輔 | | 四宮 綾子 |
| | 糖尿病内科 | 北岡 千恵 | 小児科主任医 | 因 てい子 | | 中武 裕 |
| | 呼吸器内科 | 森脇 篤史 | 泌尿器科 | 武田 充絵 | | 林 康之 |
| | 呼吸器内科 | 緒方 大聡 | 放射線科 | 寺澤 岳 | | 吉留 彩 |
| | 脳血管内科 | 熊本 将也 | 麻酔科部長 | 竹中 伊知郎 | | 1年次 |
| | 脳神経外科 | 土持 諒輔 | 手術部部長 | 青山 和義 | | 小田 隆太郎 |
| | 乳腺外科 | 上尾 裕紀 | 麻酔科主任医 | 岩垣 圭雄 | | 津田 美希 |
| | 消化器外科担当部長 | 松成 康生 | 救急・集中治療部/麻酔科 | 松尾 瑞恵 | | 二宮 知慧 |
| | 血管外科部長 | 三井 信介 | 救急・集中治療部 | 松本 泰幸 | | 満尾 博 |
| | 血管外科主任医 | 田中 潔 | | | | |
| 採用 | 肝臓内科 | 倉重 智之 | 呼吸器内科 | 安藤 裕之 | [研修医]1年次 | |
| | 消化器内科 | 澤野 美由紀 | 脳血管内科 | 大屋 祐一郎 | | 長尾 敏彦 |
| | 循環器内科 | 青柳 いくみ | 脳神経外科 | 小柳 侑也 | | 西村 遼平 |
| | 循環器内科 | 井上 美奈子 | 消化器外科担当部長 | 山田 大輔 | | 原田 銀珠 |
| | 循環器内科 | 富田 祐亮 | 消化器外科 | 近沢 信人 | | 日高 壮意 |
| | 循環器内科 | 渡邊 泰生 | 整形外科 | 新井 貴之 | | 宮田 依未子 |
| | 糖尿病内科 | 大城 彩香 | 整形外科 | 石原 新 | | 横手 章人 |
| | 糖尿病内科 | 黒川 真澄 | 泌尿器科 | 尾畑 紘史 | | 小野 玄太郎 |
| | 腎臓内科 | 河野 広貴 | 放射線科 | 上野 碧 | | 酒井 大樹 |
| | 呼吸器内科 | 中垣 憲明 | 麻酔科部長 | 小原 剛 | | 高橋 純一 |
| | 呼吸器内科 | 岡村 晃資 | 麻酔科主任医 | 丸岡 司 | | 渡辺 ゆか |

新任医師のプロフィールは次号(7月)に掲載いたします。

診療科目

| | | | | |
|----------|-------------|------------|------------|------------|
| がん診療センター | 循環器・高血圧センター | 脳卒中・神経センター | 内視鏡センター | 腎センター |
| 内科 | 肝臓内科 | 消化器内科 | 循環器・高血圧内科 | 心臓カテーテル検査科 |
| 心療内科 | 脳血管内科 | 呼吸器内科 | 小児科 | 外科 |
| 脳神経外科 | 整形外科 | リウマチ科 | リハビリテーション科 | 形成外科 |
| 泌尿器科 | 眼科 | 耳鼻咽喉科 | 緩和ケア外科 | 病理診断科 |
| 歯科・口腔ケア科 | | | | 放射線科 |
| | | | | 麻酔科 |

専門外来

| | | | | | |
|------|--|-------|----------------------|------|---------|
| 内科 | 血液外来／甲状腺外来／膠原病外来／ペースメーカー外来／腹膜透析外来／禁煙外来 | 呼吸器内科 | SAS外来 (睡眠時無呼吸症候群) | 整形外科 | リウマチ外来 |
| 心療内科 | カウンセリング | 小児科 | 小児循環器／小児神経／小児腎臓／小児肥満 | 放射線科 | 放射線治療外来 |
| | | 外科 | 乳腺外来 | 緩和ケア | 緩和ケア外来 |

予約センター：093-671-5489

夜間休日急患受付：093-672-3111

全科予約制

予約受付時間 8:00～16:00

当日予約 10:30まで

休診日：土曜、日曜、祝日



使命 住民の暮らしを支え、健康長寿をめざした地域づくりに貢献します

理念 皆さまが納得・安心する最良・最適の医療を提供します
職員が誇りと自信を持つことができる職場づくりを追求します
伝統を継承し、未来を見据え、地域から信頼される病院をめざします

編集後記

今回100号を迎えた広報誌の編集に、平成9年から関わってきました。さまざまな職種の方々と意見をかわして作り上げ、完成品を見るのが楽しみでしたが、そろそろ若い世代にバトンを渡したいと思います。通常業務と並行しての編集委員の仕事は大変ですが、これからも役に立ち楽しんで頂ける誌面作りを期待しています。

放射線部 中園

こんにちは
せいてつ
病院です

発行日

2015年4月1日

発行部数

4,500部

社会医療法人 製鉄記念八幡病院

〒805-8508北九州市八幡東区春の町1丁目1-1

TEL 093-672-3176

http://www.ns.yawata-mhp.or.jp

編集・発行責任者：病院長 土橋 卓也

●広報誌へのご意見はこちらまで info@ns.yawata-mhp.or.jp

●地域医療連携のお問い合わせ TEL093-671-9700

デザイン編集・印刷：よしみ工業株式会社 表紙イラスト：かわぐち たまよ

チャレンジ
25
未来が変わる。
日本が変わる。

